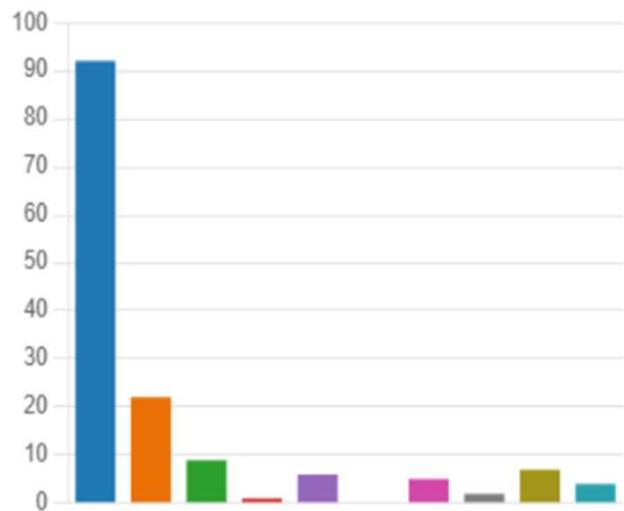


## 令和4年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム

アンケート集計結果（アンケート提出者140名：回収率84%）

### 1. 参加者の所属、職種について（複数回答可）

|                 |    |
|-----------------|----|
| ● 1 教職員         | 92 |
| ● 2 行政職員        | 22 |
| ● 3 学校運営協議会委員   | 9  |
| ● 4 地域学校協働活動推進員 | 1  |
| ● 5 公民館関係者      | 6  |
| ● 6 企業関係者       | 0  |
| ● 7 P T A 関係者   | 5  |
| ● 8 共育コミュニティ関係者 | 2  |
| ● 9 家庭教育支援関係者   | 7  |
| ● 10 その他        | 4  |



### 2. 参加分科会について（「つなげる」の部参加者は複数回答可）

|                |    |
|----------------|----|
| ● 「つなげる」の部     | 31 |
| ● 義務教育の部       | 47 |
| ● 高等学校の部       | 53 |
| ● 特別支援学校の部     | 12 |
| ● 全小学校と家庭をつなぐ部 | 25 |



3. フォーラムに参加して、学校運営協議会について理解できた。

|               |    |
|---------------|----|
| ● 1 大いにそう思う。  | 68 |
| ● 2 おおむねそう思う。 | 65 |
| ● 3 あまり思わない。  | 2  |
| ● 4 思わない。     | 0  |



4. フォーラムに参加して、地域学校協働活動について理解できた。

|               |    |
|---------------|----|
| ● 1 大いにそう思う。  | 49 |
| ● 2 おおむねそう思う。 | 81 |
| ● 3 あまり思わない。  | 6  |
| ● 4 思わない。     | 0  |



5. フォーラムに参加して、今後それぞれの立場において  
コミュニティ・スクールにかかわる取組を推進していこうと思う。

|               |    |
|---------------|----|
| ● 1 大いにそう思う。  | 80 |
| ● 2 おおむねそう思う。 | 55 |
| ● 3 あまり思わない。  | 0  |
| ● 4 思わない。     | 0  |



## ご意見・ご感想（一部抜粋）

### 基調講演

- ・ 社会の担い手ではなく、創り手を育成すべく、きのくにコミュニティスクールをより活性化し、一緒に考え、ともに汗を流していける組織としていきたいと思いました。
- ・ 校長は、雑談が上手に、場づくりが上手になるようにと言う言葉。校長の思いによって学校が変わるので、職場の先生方が、地域とともに子供を育てていきたいと言えるような学校運営に努めたいと思いました。
- ・ 保護者として参加させていただきました。先生方の大変さがわかりました。時代の流れとともに、精神論で先生方に負担をかけてはいけないと思いました。また、多様性の時代、すべてに対応するのは難しい。子供に未来を担わせるのではなく、創ってもらえるよう、一保護者として当事者意識をもって、できることをやっていきたいと思います。

### 「つなげる」の部

- ・ 自転車で、学校・地域・子供・行政の理想のつながりを示していただきました。ファシリテーターとして必要な要素を教えてください、グループワークを通して、その重要さを学ぶことができました。
- ・ CSについて、自転車のイラストで説明していただき、大変わかりやすかったです。大谷先生のファシリテーションで、話し合いやワークもスムーズに取り組むことができました。
- ・ 大谷先生の講演内容は、わかりやすく、うまくいく姿を示していただき、やる気につながりました。

### 義務教育の部

- ・ これまで学校という狭い視野で子供たちの教育を考えていたように感じました。地球や社会といった大きな視点に立って、予測困難な時代を生き抜くことができる子供の育成に向け、地域とともに考える組織的な取組が必要だと感じました。
- ・ 幼・小・中・高・大、または、家庭・学校・地域が共通した目標をもっておくことが大事だと思いました。また、その目標を掲げるだけでなく、取組の様々な場面において振り返り、学校運営に活かすことが大切だと思います。
- ・ 社会の創り手となるように、学校だけが責任をもって教育を行うのではなく、地域、保護者とともに考えなくてはならない時代になっているのだと思いました。日本だけではなく、世界的な視野に立った考えを持てる子供の育成が大切であるが難しいと思いました。

## 高等学校の部

- ・コミュニティ・スクールの運営にあたって、「地域」を想定しにくい高校の事例に基づいた話をしていただきました。こども家庭庁の設置とも関係するが、子供の意見を行政や学校運営協議会に活かしていく方法論が今後の課題になると感じています。
- ・先生のお話は、今後に向けての課題を提示されたと思いました。これまでの価値観の転換を図りながら、学校・家庭・地域に加え、行政・教育委員会のより一層の連携が必要だと感じました。
- ・オンラインで学校運営協議会の委員になってもらう方法は検討に値するご提案だと感じました。テーマ・コミュニティの話で、少しは高等学校における「地域」が見えた気がします。

## 特別支援学校の部

- ・学校運営協議会で取り上げるテーマは、自校の課題であり、その解決のために求められる人を委員として選んでいくということを改めて思いました。今後、委員を決めていく上で大事にしていきたいです。学校運営協議会の目的について、基本をしっかりとおさえることができました。
- ・特別支援学校におけるコミュニティ・スクールの運営やねらいについて、具体例を交えながら説明していただき、わかりやすかったです。また、最後に情報共有することで、他校の取組も知ることができました。
- ・先生のお話を伺い、取組にばかり気を取られがちですが、「評価」についてもしっかりと考えたいと思いました。

## 全小学校と家庭をつなぐ部

- ・学校が家庭とつながりをもつことがとても重要な時代に入っていると切に思っています。学校と家庭をつなぐ、このような支援チームの存在がとてもありがたいと素敵なことだと思いました。子供・保護者が一人一人well-beingになるよう連携が大切だと学びました。
- ・つながることの大切さを感じた。基調講演の話に合った、教職員の負担軽減につながっていたことをエピソードで教えていただき、こういったシステムが各市町村にあればいいのと思いました。
- ・一つ一つ丁寧に話をしてくれ、とてもよくわかりました。また、熱量がすごかったです。深く温かい思いが、うんと伝わりました。ヘスティアは橋本市の宝物です。